

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】 Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.
Kingdom of Cambodia
電話 (855) 12-737-559 (855) 78-784-808

【ホームページ】 AAC21 [検索](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

【Facebook ページ】 <https://www.facebook.com/aac21.net> [検索](#)

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう



アンコールワット

発行日 2014年（平成26年）1月1日

第74号

（年6回 奇数月発行）

カンボジアの外務省・福祉省と再契約

本会はこのほど、カンボジア政府・外務省に国際NGOとして再登録、福祉省と活動についての合意書を取り交わしました。これらの契約は3年に一度更新され、今回は3回目の登録、及び合意書取り交わしです。カンボジアといえども、自由気ままに活動できる国ではなく、カンボジア政府の審査・承認が必要になります。無登録の状態では問題が起きれば、カンボジア国内法により裁かれるケースもあるそうです。

この日のため、毎日練習しました!! 小学校対抗サッカー大会を開催

サッカーが大好きなカンボジアの子どもたちに夢と希望を持ってもらおうと、本会は「カンボジアの子どもたちに夢と希望を贈る市民の会」（茨城県日立市）と共催して年に一度、カンボジア・コンポンスプー県内の小学生を対象にサッカー大会を開催している。



白熱の決勝戦



参加した8チームの子どもたち

十一月二日〜三日、第六回小学校対抗サッカー大会を夢ホームに近い「ローロックス小学校」の校庭で開催、選手や応援隊など、沢山の子どもたちが集まった。
参加したのは、夢ホームの周辺にある八つの小学校。試合は二日間、にわたりトーナメント方式で行なわれ、夢ホームの子どもたちが通う「タメイ小学校」が初優勝した。夢ホームのよっちゃんこと、トム・チョム君（六年生）がゴールキーパーとして大活躍した。
閉会式では、「カンボジアの子どもたちに夢と希望を贈る市民の会」から、優勝カップ、トロフィー、サッカーボール、ユニフォームなど沢山の賞品が選手たちに贈られた。同会から三人のメンバーが参加、審判も務めた。
第二十五回「カンボジアの旅」に参加した会員さんたちは決勝戦のみ観戦、夢ホームの子どもたちが通う「タメイ小学校」の選手たちと熱い声援を送っていた。

サッカー大会の開催にあたり、次の方々よりご協力をいただきました。（敬称略）

茨城県サッカー協会、Jリーグサガン鳥栖、柏レイソル、FC東京・塩田選手、日立市サッカー少年団、日立FC、神峰スポーツ店、日之出電機、北栄通商、他

職業訓練「もの作り技能講習会」20回記念祝賀会開催

パティには「カンボジアふれあいの旅」に参加した皆さん、地元中学校の校長、開催中のサッカー大会で審判をしてもらったカンボジアの皆さん、今まで訓練を受けた子どもたち、夢ホームで暮らしている子どもたちなどが、食事をしながら楽しく交流した。
鈴木さんは、「今後は、自分の体力と相談し、無理のない範囲で訓練を続けたい」と話している。



記念品を渡す鈴木千雄さん（右）とパティの代表、夢ホームのあるコンポンスプー県のあるコンボ社局長がカンボジアを代表し、御礼の挨拶をした。

鈴木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）が、板金加工技術修得のための職業訓練プロジェクト「もの作り技能講習会」（夢ホームの職業訓練棟）を開始して三年が経過した。講習会数が丁度二十回に達したことを記念し、十一月三日、夢ホームにおいて祝賀会を開催、約六十人が集った。
祝賀会は、第一部（セレモニー）、第二部（パティ）の順で行なわれた。セレモニーでは、まず鈴木さんが挨拶、三年間の訓練で沢山の子どもたちが技術を修得し、将来の自立に役立ててほしいと話した。来賓では、夢ホームのあるコンボ社局長がカンボジアを代表し、御礼の挨拶をした。

六十五歳、高齢者という言葉を返上します

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

個人的なことで恐縮だが、私は十二月十一日、六十五歳になった。いよいよ高齢者の仲間入りである。
とはいえ、日本人の平均寿命は平成二十二年版の高齢社会白書によれば男性七九・一九歳、女性八六・〇五歳。私が生まれた昭和二十三年の日本人男子の平均寿命は五五・六歳だったのだから、一年半ほど前から、友人が持っているアパートを本会の事務所兼用で借りて住んでいるが、と横になりたくなる。自分の体力と相談しながら時に仕事、時にリラククスと、これからは余裕を持って暮らしたいと思う。
そんな訳で、カンボジアへ行くば三週間近く滞在し、現地生活を楽しんでいる昨今である。一年半ほど前から、友人が持っているアパートを本会の事務所兼用で借りて住んでいるが、

実はこの原稿もカンボジアのアパートで書いている。仕上がれば、写真とともにメールに添付して日本の印刷会社に送る。
も不要の時代になったようだ。これからはパソコンができていないと生きていけない時代なのか？パソコン世代ではない高齢者は、ますます肩身が狭い。定年後、自分の居場所がなく、うろろろさ迷う高齢の方が多いと聞く。家にも妻がいて顔を見せ、図書館は同じく同僚で満員状態。定年後はゆとりあるばら色の人生を夢見ていた諸兄も多いことだが、現実はそのうまく行かないのが世の常である。
その点、難問を抱えつつも日本とカンボジアの架け橋となつて働くことが出来る幸いを感謝している。私の motto は生涯現役だ。
いずれにしても、残りの時間が少なくなっていく中、お迎えが来た時に後悔することだけは避けたい。「みんな、ありがとう」と感謝しながら旅立ちたいものだ。



サッカー大会で優勝チームに賞金を渡す

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめちゃう子どもが後を断ちません。
本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。
例えば68年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。
※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【年会費】：子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入（毎月、年3回、年2回）のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。
- 【会費の用途】：年会費の3分の1が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の3分の2が、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。
- 【サポート期間】：最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。
- 【里子との交流】：里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金（税金）は一切いただいておりません。

十二月はカンボジアの小学校と村に四基の井戸が完成



喜ぶ住民たち（クロホーン村）

11月2日、カンボジアふれあいの旅の日程の中で、佐々木テルさん（宮城県府町、会員）が寄贈した井戸の贈呈式が行われ、旅に参加した佐々木さんと娘さんの土井裕美さん（京都市右京区、会員）が式にも参加した。井戸は、コンボンスプー県内の小学校に完成した。

11月11日、匿名の方が寄贈した井戸（2基）がカンボット県内の村に完成、贈呈式には根岸理事長が匿名の方に代わり出席した。

11月13日、札幌西高校教職員一同様が寄贈した井戸がコンボンスプー県内の小学校に完成、こちらも根岸理事長が寄贈者に代わり、贈呈式に出席した。

〈お願い〉

井戸の建設代金について、最近の円安傾向のため、また現地の物価高騰により、1月以降に作る井戸代金を現行の16万円から17万円に値上げせざるを得ない状況です。皆様のご理解よろしくお願いいたします。

11月に完成した井戸の内訳

| 寄贈者名 | 小学校名・村名 | 生徒数・村民数 | 所在地 |
|---------------|-----------|---------|-----------------|
| ① 佐々木テル様 | オコーキー小学校 | 229人 | コンボンスプー県ソムロントン郡 |
| ② 匿名の方より | アンスワイ村 | 300人 | カンボット県ヨーク郡 |
| ③ 匿名の方より | クロホーン村 | 1078人 | カンボット県ヨーク郡 |
| ④ 札幌西高校教職員一同様 | トピアヴェン小学校 | 570人 | カンダール県カンダラステウン郡 |

※通算の井戸設置数（2003年～）＝238基（11月現在）

大型井戸を寄贈した中学校にサッカーボールのプレゼント



校長先生にサッカーボールを渡す（左が鈴木さん）

鈴木千雄さん（愛知県あま市、里親会員）が二〇一二年七月、マンモス中学校に大型井戸を寄贈したが、贈呈式には都合がつかなくて出席できなかった。十一月七日、職業訓練プロジェクトが一区切りついたので大型井戸を見学するため、セレイモン・カンダール中学校（生徒数二千二百人・カンダール県）を訪問、子どもたちのため、サッカーボールを寄贈した。大型井戸は水が沢山出ており、有効に使われていた。

「新潟発」カンボジア支援プロジェクト730が小学校訪問



ブランコとすべり台を寄贈

十一月四日、「カンボジアふれあいの旅」の中で、一部参加した三林けい子さん（新潟市中央区、理事・里親会員）が代表を務める「新潟発」カンボジア支援プロジェクト730がオプブションとして日帰り旅行を企画した。「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」（新潟市）の全面的な支援により、今年の一月に校舎の建設が始まる「トントラッチ小学校」（コンボンチャム県）を訪問、遊具を寄贈したり、学用品を全生徒に配布した。昼食も手作りし、生徒たちと楽しく交流した。ふれあいの旅参加者を中心に、十数名がオプブション旅行に参加した。

トロパントム小学校 図書館に備品を寄贈



住民と懇談する石川さん（左）

十一月五日、トロパントム小学校（コンボンチャム県）に校舎と図書館を寄贈した石川桂さん（愛知県安城市、理事・里親会員）が同学校を訪問、本棚、机、椅子、下駄箱、図書などの備品類を寄贈した。また、学校の先生や住民の皆さんと懇談、これからの図書館運営などについて話し合いの時間をもち、学校から遊具設置の要望あり、検討することになった。

児童養護施設《夢ホーム》日記

児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から18歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。



たくさんのお米をいただいた

ふれあいの旅の皆さんが訪問

11月3日、カンボジアふれあいの旅に参加した皆さんが訪問、子どもたちと交流したり、昼食を囲み談笑した。また、皆さんからお米、お菓子、衣料品など、沢山の品物を寄贈していただいた。

國學院大學国際協力サークル～優志～がTシャツをプレゼント



Tシャツ着て記念撮影

9月に夢ホームを訪問した同サークルが子どもたち全員に、Tシャツをプレゼントした。9月の訪問時、子どもたちに絵を描いてもらい、日本に持ち帰ってシャツにスクリーン印刷してくれたもの。自分の絵がTシャツに印刷され、子どもたちは喜んでいました。

新任の男性保母さんは営繕好き

勤務していた男性の保母さんが11月で退職したため、12月より新しい保母さんを採用した。ヘイン・ピーロンさん（37才）、元建築屋で、とても器用な保母さん。営繕の仕事ならお任せだ。



新任の男性保母さん

夢ホームの子どもたち

トム・チョム君（ニックネーム＝よっちゃん）

誕生日は2001年6月23日（12才）、コンボンスプー県出身。3人兄弟の真ん中。兄は出家して僧侶に、妹は夢ホームに入園しているトム・チョーヴィちゃん。母は死亡、父親は建築現場を転々としていて自分の家は無く、夢ホームに入園する前は祖父の家で暮らしていた。4年前、夢ホーム入園。



歌のうまさは折り紙つき

タメイ小学校6年生。大のサッカー少年。11月に開催した「小学校対抗サッカー大会」では、ゴールキーパーとしてタメイ小学校優勝の立役者になった。歌手志望。

涙あり！笑いあり！楽しかった「カンボジアふれあいの旅」

10月30日～11月5日、第25回「カンボジアふれあいの旅」が行なわれ、一部参加した7人を含む26人が参加した。参加者全員が本会の里親会員、又は個人会員。

今旅は、いつになく多彩な旅だった。オプション参加の企画が多く、参加者もどれに参加しようかと迷うほどだった。

十月三十日 カンボジア第二の都市、アンコールワットのあるシエムリアップへ到着。

十月三十一日 大半の参加者がアンコールワットやバイヨン寺院などの遺跡を観光した。夕日に映えるアンコールワットをバックに撮った写真は良い記念になった。

十一月一日 トンレサップ湖の水上生活村にあるメイチュレイ小学校を訪問、学用品を配布して子どもたちと交流した。

その後、子どもたちの住むいかだの家を訪問した。会として初めての水上生活村の訪問は大変人気が高く、毎年十一月に行なう「ふれあいの旅」の定番に考へている。

十一月三日 本会がコンボンスプー県で運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、ここで暮らす十七人の子どもたちとしばし交流した。里親会員の鈴木千雄さんが「夢ホーム」にある職業訓練棟で学んでいる「もの作り技能講習会」が



感動した水上生活村訪問



厳しい環境の中、必死に生きている子どもたちに涙（寝たぎりの母親を看病する里子）

午後、バスにてカンボジア最大の街、首都プノンペンに向かった。

十一月二日 クメール教育里親基金がサポートする里子の家を訪問、再会に涙する里親さんが印象的だった。寝たぎりの母親を看病する里子、心臓病のため通学を諦めて家で暮らす里子など、厳しい環境の中、精一杯頑張っている子どもたちの姿が涙を誘った。

十一月四日 最終日はプノンペン市内にある国立博物館やトゥールスレン博物館を見学、午後はセントラルマーケットにて買い物を楽しんだ。一部の参加者は、今年七月に校舎が完成する予定の「トントラッチ小学校」を訪問した。一行は夜便にて帰国の途につき、翌五日に無事帰国した。



カンボジア製品を販売(写真提供:遠藤啓様)

「よこはま国際フェスタ2013」(象の鼻パーク)に初参加、一日目は好天に恵まれたが、二日目はあいにくの荒天でやむなく中止になった。今年も参加する予定。

また十月十九日、二十日、二十一日は「よこはま国際フェスタ2013」(象の鼻パーク)に初参加、一日目は好天に恵まれたが、二日目はあいにくの荒天でやむなく中止になった。今年も参加する予定。

秋は二つの国際協カフェスタに参加

里子家庭訪問記録

| | |
|---|---------------|
| 名前: ボラー・スレイネアン | 学校名: プレイトム小学校 |
| 年齢: 13歳 | 学年: 小学校の6年生 |
| 性別: 女の子 | |
| 住んでいる場所: コンボンスプー県 ウドン郡、ヨトサムキーコミュニティ、トラッチコン村 | |
| 学校までの所要時間: 自転車です10分 | |
| 好きな教科: 国語(特に書き取りが好きです。) | |
| 苦手な教科: 算数(特に計算するのが難しいです。) | |
| 担任から一言: 成績: A 道徳: A 健康: A 学校活動: A 出席: A | |
| 家庭状況: 現在、お母さんと暮らし、兄弟は3人です。兄さん1人、姉さん1人、弟さん0人、妹さん0人で、ボラー・スレイネアンちゃんは第3子です。 | |

一日の過ごし方: 毎朝6時におきています。かおをあらって、お母さんと一緒に田んぼへ行きます。11時半に昼ごはんを食べて、水を浴びてから学校に通っています。学校は1時から5時までで、5時から6時まで1時間英語の勉強をしています。7時に晩ご飯を食べて、1時間半ぐらい復習してから、寝ます。

好きな遊び: ゴム遊び
好きな食べ物: 焼きそば
将来の夢: 教師になりたいです。



火を燃やしている写真です。

備考: ボラー・スレイネアンちゃんはプレイトム小学校の6年生です。毎日元気で学校に通っています。スレイネアンちゃんは明るい子で、友達がたくさんいます。休み時間に友達と遊んだり、本を読んだりしています。授業以外にお母さんの手伝いをしてあげます。ご飯を作ったり、牛の世話をしています。「里親様にいただいた支援金を本当にありがとうございます。」と本人が言いました。

担当者: ヴォン・ロトボレイ(現地スタッフ)



ヘウン・チェト君(真ん中)と柿本恵子さん(右)

ふれあいの旅に参加した柿本恵子さん(静岡県島田市、里親会員)は、里子のヘウン・チェト君を四年ぶりに訪問、体が弱いため学校にも行けず、就職もままならない生活ぶりに涙、激励して別れた。

過酷な環境の中でたくましく生きる子どもたちに会い、勇気をももらった里親さんも多かった。

本会は、病気や事故、親の離婚などが原因で両親や片親を失い、経済的に困窮しているカンボジアの子どもたちが学校へ行くようにと二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設、十一月末現在で約三百五十人の子どもたちを教育支援している。

十一月二日、「カンボジアふれあいの旅」に参加した里親さんらは三つのグループに分かれて里子の家を訪問、再会あり初対面あり、里子に会えた里親さんは子どもにお土産を渡し、子どもに会えた里親さんは子どもにお土産を渡した。

クメール教育里親基金活動レポート

新潟で小学校建設チャリティーコンサート開催



目録を受け取る根岸理事長(右)(写真提供:三林けい子様)

十月六日、「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区)が主催する「チャリティーコンサートin新潟」(新潟テルサ大ホール)が開催された。同会は世界各地に小学校を寄贈しており、今年と来年に開催するコンサート収益金を本会に託し、カンボジアに小学校の校舎を建設する計画。コンサートの冒頭に目録の贈呈式が行なわれ、根岸理事長が受け取った。

校舎は今年一月から着工、五月に完成して七月に行なわれる「カンボジアふれあいの旅」の中で贈呈式を予定している。

尚、最近の為替変動(円安)の影響により建設費用が増大、不足分は「新潟発!カンボジア支援プロジェクト730」(新潟市中央区、三林けい子代表)が資金を募り、充当することになった。



民宿「見行崎」の皆さんと一緒に(写真提供:三林けい子様)

毎年実施している会員親睦旅行だが、昨年は十月十一日、十二日、新潟県佐渡島で一泊旅行を楽しんだ。参加者は八人だった。

佐渡といえどトキと金山とたらい舟、天気にも恵まれて有意義な二日間だった。民宿では、美味しい魚料理に参加者は大満足だった。三林けい子さん(新潟市中央区、理事・里親会員)が幹事になり、すべて段取りしてくれた。



「カンボジアの子どもたちに夢と希望を贈る市民の会」の皆さん(写真提供:遠藤啓様)

十一月十六日、第十一回「ひたち国際文化まつり」(茨城県日立市、日立シビックセンター)が開かれ、アジア諸国の文化の紹介、お茶、生け花など日本文化の体験、バザーなどが行なわれた。

「カンボジアの子どもたちに夢と希望を贈る市民の会」(茨城県日立市)がカンボジアで開催している「小学校対抗サッカー大会」の模様も紹介された。

展示コーナーでは、十二日、十七日、写真展「カンボジアの子どもたち」を開催、アマチュア写真家の遠藤啓さん(静岡県伊豆の国市、会員)がカンボジアで撮った写真を展示した。



シンポジウムの様子(写真提供:遠藤啓様)

「カンボジアの子どもたち」二人の写真展

十月一日、三十日、ギャラリー&カフェ「SUI」(山形県遊佐町)で「カンボジアの子どもたち」二人の写真展が開催され、会員の遠藤啓さん(静岡県伊豆の国市)と鈴木千雄さん(愛知県あま市)がカンボジアで撮った写真を多数展示した。

期間中の十五日には、「カンボジアの子どもたちを語ろう」のテーマでシンポジウムを開催、遠藤さんと鈴木さんが出席し、食事しながら現地の活動の様子について参加者(十人)と語り合った。



テープカットする辻義輝さんと奥様の敬子さん(2009年3月5日、スワイポック小学校開校式)

辻義輝さんが逝去

十月十四日、辻産業グループ会長、辻義輝さん(熊本県合志市、里親会員)が病気のため永眠されました。八十一才でした。

お別れの会には六百数十名の方が参加され、その中で、カンボジアに小学校の校舎を寄贈した時のビデオも放映されました。

辻さんは二〇〇九年三月、カンボジア・コンボンチャム県内に小学校の校舎を寄贈、その後も里親会員として、カンボジアの子どもたちを支えてくださいました。

辻さんの功績を讃え、心よりご冥福をお祈り致します。



中央(左)が桑原淑子さん

桑原淑子さんがカンボジアで音楽指導

十月二十日、二十七日、桑原淑子さん(福島県二本松市、里親会員)がカンボジアを単独訪問、ボランティアでカンボジアの小・中学生に音楽指導した。

桑原さんは、ブノンペン郊外の小学校と貧しい家庭の子どもたちが通う無料の教育施設で二日間づつ授業した。最終日には、子どもたちと保護者を集めて発表会を行った。

桑原さんは、一月にもカンボジアを訪問、子どもたちに音楽指導を予定している。

■井戸が風呂場に

本会が作った井戸で、子どもを石鹸で洗っている若いお母さんを見かけた。カンボジアの井戸は日本のそれと違って水が生ぬるいので、お風呂にも最適のようだ。どのような形でも、寄贈した井戸が有効に使われているのは嬉しいことだ。

■体重を計るおじさん

マーケットに行ったから、体重計を持っていきおじさんを見かけた。1回五百リエル(約十二円)で計ってくれる。カンボジアでは、家庭に体重計を置く家庭がまだ少ないようだ。

■食材が回転する店が繁盛

日本では回転寿司が盛んだが、最近ブノンペンにオープンした「シャブシャブ」の店は、肉や野菜など、シャブシャブの食材が回ってくる。食べ放題で値段は一人当たり約九百円、ドリンクも飲み放題だ。こうした大型チェーン店が進出した影響で、老舗の日本料理店が相次ぎ閉鎖している。

■京唄子さん似のバイヨン像

アンコールワットのバイヨン寺院には、観音様に似た石像が沢山あるが、中でも日本の京唄子さん似の像が有名とか。似ているといえど何となく似ているが...





指導する榎戸徹彦さん

第十四回「鑄造によるアクセサリ作り技術講習会」(夢ホーム)

日本宝飾クラフト学院（本校）東京都台東区）の専任講師で、自宅に工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市、里親会員）が「夢工房」を開設、本会の職業訓練プロジェクトとして鑄造によるアクセサリ作りを指導している。

十一月二十六日、二十九日、第十四回の講習会が行なわれ、夢ホームや地域の村より六人が参加した。

今回の講習会では、前回の続きで同じ物を作成、早く終わった者は新しい作品に取りかかった。作品作りも徐々に難しくなってきた。

次回（第十五回）の講習会は、一月二十一日、二十四日を予定している。

一九九一年、紛争各派がパリに集まり「パリ和平協定」が結ばれた。これを受け一九九二年、国連カンボジア暫定行政機構（UNTAC）のもとに陸上自衛隊の施設部隊がカンボジアに派遣され、一九九三年九月までに計千二百人の隊員が道路、橋の修理などの任務に赴いた。

自衛隊にとつては、ベルシャ湾派遣に続く二度目の海外派兵だったが、陸上自衛隊としては初めてで、国連のPKO活動としても初の試みだった。日本がカンボジアに部隊を展開したのは、旧日本陸軍の仏印進駐（一九四一年）以来のことだ。

自衛隊以外に文民警察官や選挙監視ボランティアなどが派遣されたが、選挙期間中に国連ボランティアの中田厚仁さん、文民警察官の高田晴行警視が襲撃事件で死亡する悲劇が起きた。

自衛隊の施設部隊が任務を終え、今年で二十年経った。宿営地だった南部のタケオ市には、今もお放置されたままの仮設宿舎が残っている。

任務終了二十年という節目の年、たまたまタケオ市に行く用事があったので、カンボジア人スタッフに案内してもらい、仮設宿舎のある場所に行ってみた。二十年も前のことなので、スタッフは無論のこと、道端で尋ねてもほとんどの人がその場所を知らなかった。何とか探し当て、お目当ての仮設宿舎に辿り着いた。ついでに、自衛隊が作ったという、ブンペンからタケオ市に通じる国道に架かる橋、舗装道路なども拝見し、今もお立派に使われていることを確認し、ホッとしたりした。

自衛隊が任務を終え撤収、UNTACも引き上げて新生カンボジア王国が

カンボジア自衛隊派遣20周年に思う



自衛隊の仮設宿舎（タケオ市郊外）

誕生した。あれから二十年、五年に一度実施される下院選挙が昨年の七月に行なわれた。選挙に大規模な不正があったということで、野党が国会をボイコットするなど不穏な空気が漂っているものの、民主主義を標榜する国の姿が出来つつある。犠牲になつた二人の日本人を始めとして、派遣された自衛隊員の皆さんなどの努力の汗を、両国民は決して忘れてはならない。

（理事長のブログ「メコンの風に吹かれて」より）



第5回ニッタク カンボジア地域交流卓球大会

第五回ニッタク カンボジア地域交流卓球大会を開催

十一月三日、カンボジアの首都プノンペン市内にある卓球センターで、「第五回ニッタク 地域交流卓球大会」が開催された。「新潟発」カンボジア支援プロジェクト730（新潟市中央区、三井けい子代表）が主催、本会などが後援した。

五回目となる本大会はプノンペンに会場を移し、小学生の部、中学生の部、一般の部を開催。初めてプノンペン市民も加わり盛り上がった。夢ホームからも子どもたちが参加、「カンボジアふれあいの旅」の参加者の一部が応援に駆けつけた。

最後は、恒例のビンゴ大会で締めくくった。

次回は今年の七月に開催を予定している。

野 党救国党による大規模デモで、男性一人が銃弾に当たり死亡、他九人が警官に叩かれ負傷し病院へ搬送された。

被害者の両親によると、被害者自身はデモに参加する意志はなく、政治への特別な関心も無かったという。

カンボジアミニニュース
現地で行っている新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

フン・セン首相
「社会福祉を二倍にするために努力する」

ASEAN社会福祉開発担当大臣の会議の開会式においてフン・セン首相は、すべての人々が健全な生活と社会的正義を受ける同等のチャンスを得られるように、カンボジア政府の方針に基づいて、カンボジア政府の政策を打ち出す考えを示した。

フン・セン首相は「我々がこの点を強化する理由は、ASEAN地域や世界の正式なパートナーとして地位を確立するためである。第五次政権においてはこの社会福祉を重要な政策の柱とし、貧困者および社会的弱者の保護、社会的リスク回避のための保障をすることで、すべての国民に恩恵がいきわたるよう努力したいと考えている」と述べた。

首都のデモ、男性一名死亡

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子ども達と楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な井戸の贈呈式・学用品配布・アンコールワット観光など

第26回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子ども達との交流をはかることができます。

特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。

もちろんカンボジアといえば世界遺産の宝庫、アンコールワット観光（オプションツアー）も予定に入れました。

なお、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、参加される方は、事前に会員登録（一口5,000円）が必要になります。

【旅行期間】平成26年3月5日（水）～11日（火）（5泊7日）
 【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝20名）
 定員に満たない時は中止になる予定です。
 【滞在ホテル】ダイヤモンドホテル（ブンペン）5泊
 【利用空港】成田空港および関西空港など
 【旅行日程】5日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのブンペン国際空港へ。
 6日＝小学校を訪問、井戸贈呈式と学用品配布など
 7日＝教育支援する里子の家を訪ね
 8日＝自由行動（オプションでアンコールワット観光あり）
 9日＝夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
 10日＝プノンペン市内観光後、夜8時頃チェックアウト⇒プノンペン国際空港から帰国の途へ
 11日＝早朝、成田・関西空港などに到着

【旅行代金】15万円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。＊日帰りアンコールワット観光30,000円（希望者のみ）＊傷害保険は各自でおかけください。

【締切日】平成26年1月10日（金）

お問い合わせ・申し込み
 旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会
 〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL: 03-3991-2854
 E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213

事務局便り

■第二十五回カンボジアふれあいの旅は、一部参加者含む二十六人が参加、全員が無事帰国いたしました。次回、三月の旅の参加者募集が始まりました。奮ってご参加ください。

■一面にも記載しましたが、本会はこの程カンボジア政府と、活動に関わる合意書を取り交わすとともに、カンボジアの外務省に「国際NGO」として再登録を済ませました。最近、いかがわしいNGO団体がカンボジア国内に跋扈しており、カンボジア政府としても、無登録のNGOは排除していく方向です。カンボジア支援は、信用ある本会にお任せください。

一月～二月の予定

- 会報「アンコールワット」一月一日付け第七十四号発行
- カンボジアミニツアー（二月八日～二十六日）
- 二本松ロータリークラブほかカンボジア訪問（二月十二日～十九日）
- 写真展「カンボジアの子どもたち」（二月四日～九日、清瀬クレアギャラリー）